



まいた

令和8年度

11月号

令和8年10月23日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

一人ひとりが輝く運動会を目指して

校長 鳥飼 信幸

運動会に向けて、子どもたちの元気な声が響いています。

校庭や体育館では友達と声を掛け合いながら競技の練習をする姿が見られます。「もう一回やろう!」「次はきつとうまくいくよ!」と励まし合う声も聞こえてきます。朝や休み時間にも集まって作戦を考えたり、友達の頑張りを応援したりする姿があり、子どもたちは運動会当日に向けて楽しみながら準備を進めています。

そんな子どもたちの姿を見ていると、運動会は単に勝敗を競うための行事ではなく、仲間と力を合わせる大切さや、挑戦する喜びを学ぶことのできる貴重な機会であることを改めて感じます。

以前からお伝えしているように、私は子どもたちから走ることが得意で、徒競走では誰にも負けないという自信をもっていました。運動会では一等賞を取ることも多く、周囲から褒められることもうれしく感じていました。しかし、不思議なことに、一等になっても心のどこかモヤモヤした気持ちが残っていました。

そんな私の価値観を大きく変えたのがラグビーとの出会いでした。ラグビーは、一人ではできないスポーツです。私は走ることに自信がありましたが、体が特別大きいわけでもなく、力が飛び抜けて強いわけでもありませんでした。そのため、スクラムで相手を押し込むような役割は得意ではありませんでした。しかし、仲間が体を張ってボールをつなぎ、そのボールを受け取って走ることによってチームに貢献することができました。

ラグビーには、トライを決める選手だけでなく、仲間のために体を張る選手、タックルして相手を止める選手、痛みも苦しさにも耐えながら前進するスクラムを組む選手、パスを出してタックルされる選手、声を出して励ます選手がいます。一見目立たないプレーであっても、どの役割も欠かすことはできません。そしてラグビーにはもう一つ大切な特徴があります。試合中、監督はグラウンドの中に入ることができません。観客席から見守ることしかできないのです。選手たちは自分たちで考え、仲間と対話し、その場で判断しながら試合を進めます。だからこそ私は、ラグビーを通して「自分が活躍すること」以上に、「仲間と力を合わせて一つの目標に向かうこと」の喜びを学びました。

そして今、蒔田小学校の運動会練習の中に、そのラグビーと重なる姿をたくさん見ることが出来ます。

校庭では、子どもたちが楽しそうな笑顔で練習しています。しかし、その笑顔の裏には真剣な学びがあります。団体競技では、最初はうまくいかなかったこともありましたが、動きが合わなかったり、作戦どおりに進まなかったりすることもありました。しかし、子どもたちはあきらめません。「次はこうしてみよう」「大丈夫、もう一回やろう」「今の声かけ、よかったよ」そんな言葉が自然に聞こえてきます。休み時間には友達同士で集まり、「どうしたらもっと速く

できるかな」「並び方を変えてみようか」と作戦会議をする姿も見られます。競技が終わった後も、自分たちで反省し、改善点を話し合う様子があります。

走るのが得意な子がチームを引っ張る場面もあります。大きな声で応援する子もいます。困っている友達を支える子もいます。作戦を考えることが得意な子もいます。失敗して落ち込む友達に寄り添い、「大丈夫だよ」と声をかける子もいます。どの子も、それぞれのよさを発揮しながらチームのために力を尽くしています。

ある学年の練習で思うような結果が出なかったことがありました。しかし子どもたちは互いを責めることなく、「次は絶対うまくいくよ」と励まし合い、再挑戦していました。そして成功した瞬間、まるで自分のことのように全員で喜び合っていました。その姿を見ながら、私はラグビーの試合後に仲間と喜び合った瞬間を思い出していました。一人で勝った喜びとは違う、みんなで成し遂げた喜びがあります。一人では味わえない感動があります。そして、その感動は不思議なことに、自分だけがうれしいのではなく、仲間の喜びが自分の喜びになり、仲間の成功が自分の成功になるのです。

私は、運動会の本当の価値もそこにあると考えています。もちろん、競争することや勝敗を味わうことは大切です。だからこそ、本校では徒競走を継続します。自分の力を発揮し、挑戦する経験は子どもたちの成長につながります。

一方で、学校にはさまざまな子どもたちがいます。走ることが得意な子もいれば苦手な子もいます。力が強い子もいれば、友達を励ますことが得意な子もいます。表現することが得意な子もいます。

私たちが目指しているのは、一部の子どもだけが活躍する運動会ではありません。運動が得意な子も苦手な子も、自分のよさを発揮しながら、「自分もチームの役に立てた」「みんなで力を合わせることができた」と実感できる運動会です。

保護者アンケートでも、「団体競技を増やしてほしい」「学級や学年で協力する場面がほしい」「子どもたちの笑顔をもっと見たい」という声をいただきました。また、本校の子どもたちの運動に関する調査には課題があり、運動会を通して運動する楽しさや自信をさらに育ててほしいという願いもあります。

そこで今年度、運動会を見直し団体競技や協力する活動を大切にするようにしました。

団体競技のよさは、足の速さだけでは決まらないことです。一人ひとりが役割をもち、仲間と力を合わせ、支え合うことで大きな達成感を味わうことができます。もちろん、演技にも力が入った練習を重ねています。

それは、本校の教育目標である「自律・対話・創造」にもつながります。自ら考え行動すること。仲間と対話しながらよりよい方法を見つけること。力を合わせて新しい価値を創り出すこと。運動会は、まさにその学びを実感できる場なのです。子どもたちには、「勝ったから楽しかった」だけでなく、「みんなで頑張れたから楽しかった」「友達と協力できたからうれしかった」「運動が少し好きになった」「来年も楽しみだ」と感じてほしいと願っています。

そして、子どもたちだけではなく。当日は、子どもたちと教職員、そして保護者の皆様が同じ時間を共有し、同じ場面で笑い、応援し、ともに感動できる運動会にしたいと考えています。子どもたちが仲間を応援する姿に感動する。最後まであきらめずに挑戦する姿に感動する。みんなで成功を喜び合う姿に感動する。その感動を子どもたちだけでなく、保護者の皆様、地域の皆様、教職員みんなで分かち合いたいと思っています。

押し付けになるかもしれませんが私がラグビーを通して学んだように、一人では味わえない喜びや感動を仲間とともに感じる。その経験こそが、子どもたちの心に長く残る大切な財産になると信じています。

こんねんど うんどうかい ひ とり かかや な か ま じっかん かいじょう いっしょ かんどう
今年度の運動会が、一人ひとりのよさが輝き、仲間とのつながりを実感し、会場にいるみんなが一緒に感動で
いちにち きょうしゅくいんいちどころ ひ と と く ほ ご し や みなさま ち い き みなさま あたた
きる一日となるよう、教職員一同心を一つにして取り組んでまいります。保護者の皆様、地域の皆様の温かい
り か い きょうりよく おお せい えん ね が
ご理解ご協力、そして大きなご声援をよろしくお願いいたします。